

株式会社アーレスティ

2015年3月期 第1四半期 決算説明資料



2014年8月27日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2015年3月期第1四半期決算概況

【参考】

- ◆ 今期の見通し
- ◆ 中期目標

■2013年

- 8月 アーレスティウイilmington増築工事竣工
合肥アーレスティ東風日産乗用車公司へエンジンブロック量産納入開始
- 9月 合肥アーレスティ拡張工事竣工
アーレスティインディア工場拡張工事着工
- 10月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事着工
本社を愛知県豊橋市に移転

■2014年

- 3月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定変更
- 4月 アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事着工
- 6月 広州アーレスティ フォルクスワーゲン グループへの量産納入開始
- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工

今後の予定

- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工予定
アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事竣工予定

アーレスティインディア拡張工事竣工

Ahresty India Private Limited

■工場拡張工事

2013年9月着工
2014年7月竣工

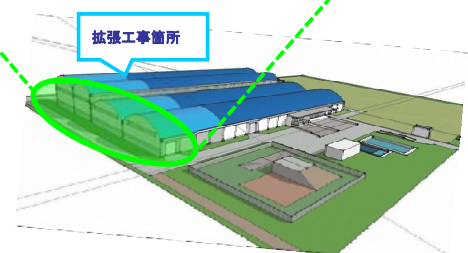
※鑄造、加工施設の増設に加え、
生産・販売増加に合わせた倉庫
スペースを確保。

拡張工事竣工時

(工場面積) 土地 58,500㎡ 建屋 約15,234 ㎡
※内、拡張面積: 建屋 約3,034㎡(鑄造:1,274㎡、加工:1,760㎡)
(ダイカストマシン台数) 15台 ※15年6月にかけて3台増設予定
(鑄造能力) 月産900t ※増設後: 月産 1140t予定



第5期拡張工事竣工後の工場外観(一部)



拡張工事箇所

2015年3月期第1四半期決算概況



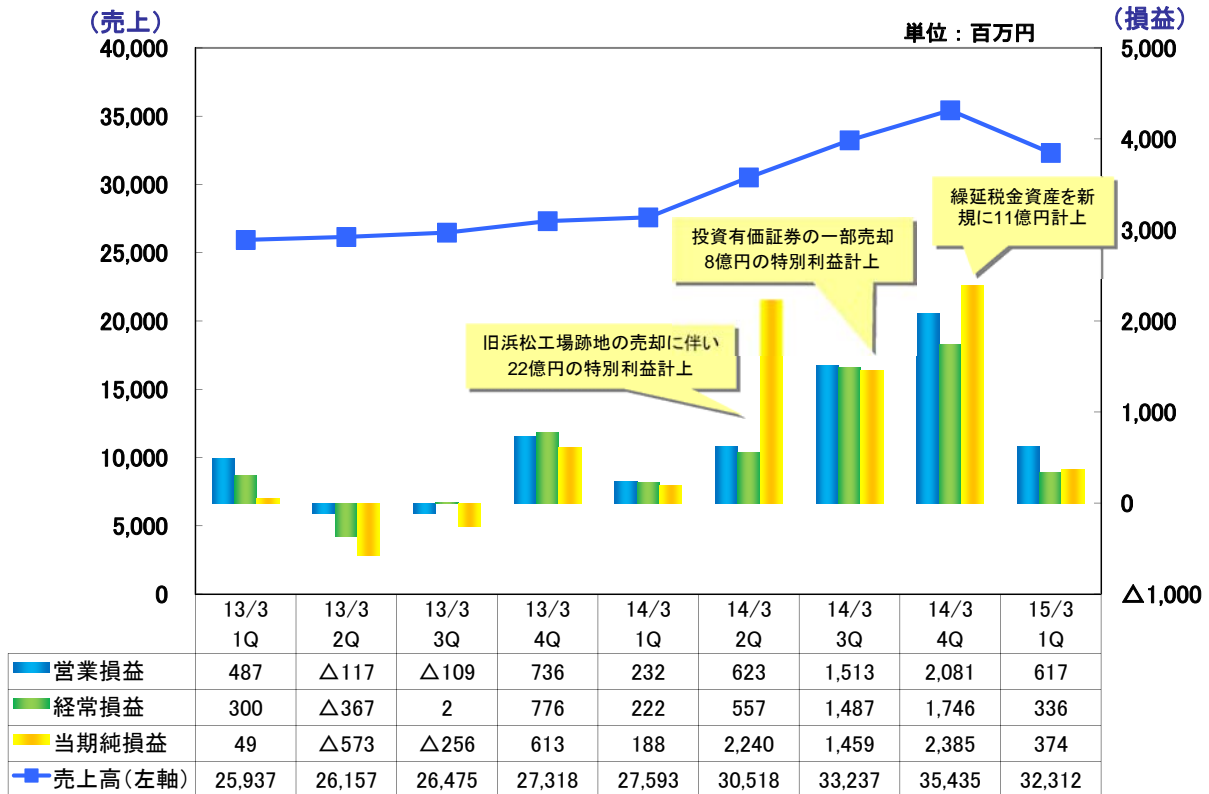
2015年3月期第1四半期決算のポイント

(単位: 百万円)

	2014年3月期 第1四半期		2015年3月期 第1四半期		増減	
売上高	27,593	100%	32,312	100%	4,719	17.1%
営業利益	232	0.8%	617	1.9%	385	165.9%
経常利益	222	0.8%	336	1.0%	114	51.4%
四半期純利益	188	0.7%	374	1.2%	186	98.6%
EPS	8.75		14.52		5.77	

- ◆ 売上高: 国内では、消費増税の反動による影響があったものの受注量は前年同期と同水準で、地金市況影響等により増加、海外では受注増と為替影響等により増収となり、売上高は323億円(前年同期比17.1%増)と増加した。
- ◆ 営業利益: 主にダイカストアジアの収益改善効果により、営業利益は617百万円(前年同期比165.9%増)となった。
- ◆ 経常利益: 前年同期は営業外で為替差益(144百万円)を計上したが、当四半期は為替差損(80百万円)を計上していること等により、経常利益は336百万円(前年同期比51.4%増)となった。
- ◆ 当期純利益: 増減の主な理由は、経常利益の増加のほか、一部子会社での繰延税金資産の計上による。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

(単位：百万円)

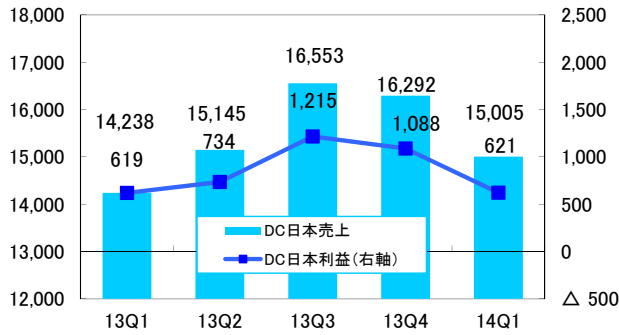
		2014年3月期 第1四半期		2015年3月期 第1四半期		増減	
日本	売上高	14,238	100%	15,005	100%	767	5.4%
	セグメント 損益	619	4.4%	621	4.1%	2	0.3%
北米	売上高	7,174	100%	9,486	100%	2,312	32.2%
	セグメント 損益	73	1.0%	△43	△4.5%	△116	—
アジア	売上高	4,655	100%	6,199	100%	1,544	33.2%
	セグメント 損益	△355	△7.6%	58	0.9%	413	—

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2014/3月期:48.3% ⇒ 2015/3月期1Q:51.1%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

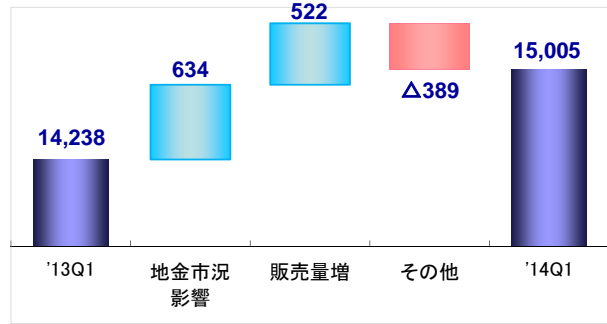
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



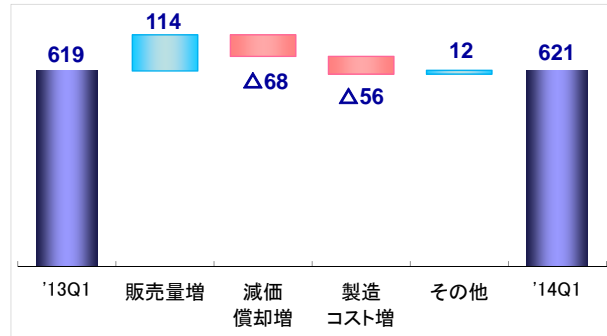
消費税増税の反動による需要減(直前四半期比)があったものの、前年同期比では地金市況の影響も加わり、売上高は増加。

セグメント利益は、販売量増、減価償却費の増加影響等により、前年同期と横ばいで推移。

売上高増減要因 (百万円)

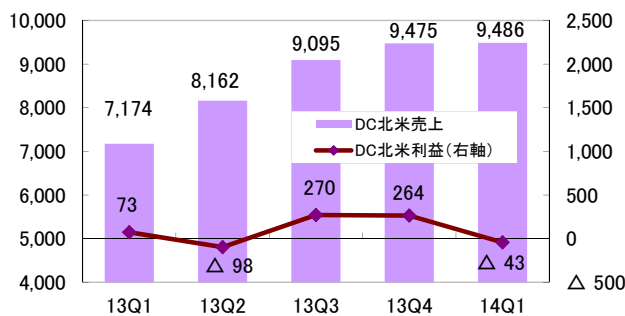


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



アメリカ: 好調な自動車販売から受注が増加、また円安基調にある為替影響もあり売上高は増加するも、増産に伴う対応の遅れ等により収益悪化。

メキシコ: 受注の増加に加え為替影響も相まって売上高は増加。製造コストの改善が進み、収益改善。

北米の収益は悪化。現在、アメリカの収益改善のためのプロジェクト活動を立上げ推進中。

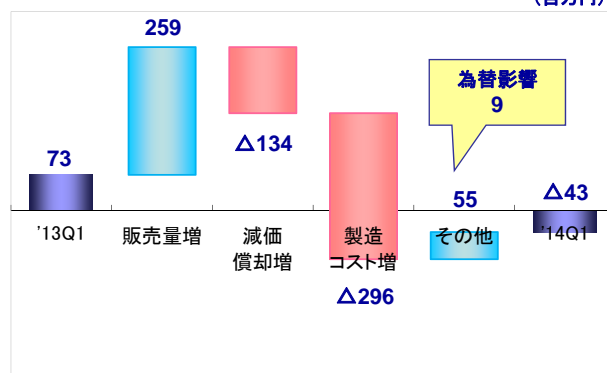
※アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

平均レート(13Q1→14Q1)
米\$ 97.93→102.12
メ\$ (米\$) 91.06→103.27

売上高増減要因 (百万円)

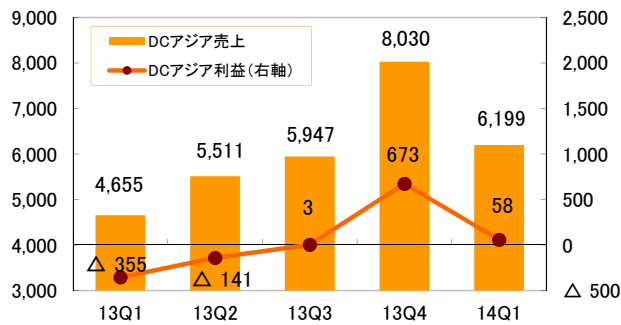


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



中国: 日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が従来の状態まで戻りつつあった中、直前四半期比では減少するも、前年同期比では売上高は増加。操業4年目の合肥は前年4Qから黒字を継続。製造コスト削減効果により前年同期比増益。

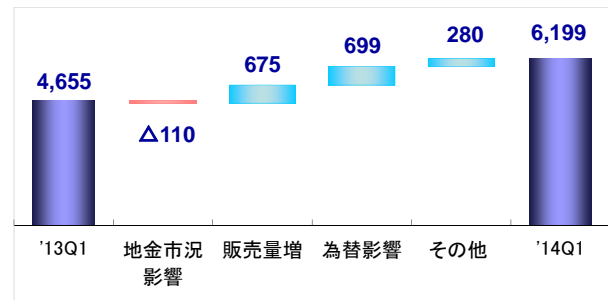
インド: 売上高は当初想定を下回り、前年同期よりも減少。売上減少等の影響により、収益は前年同期比でやや悪化。

アジアの収益は改善。

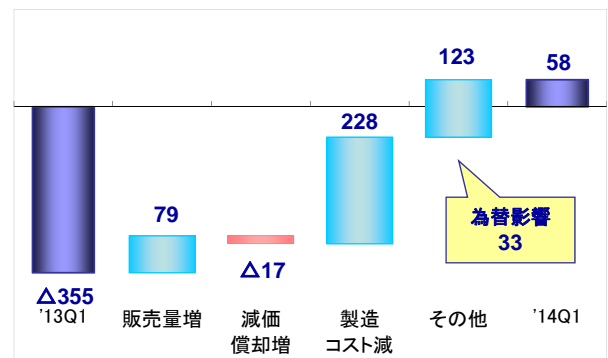
※中国1-12月
インド4-3月

平均レート(13Q1→14Q1)
人民元 14.65→16.92
インドルピー 1.75→1.71

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位: 百万円)

		2014年3月期 第1四半期		2015年3月期 第1四半期		増減	
アルミニウム事業	売上	1,109	100%	1,129	100%	20	1.8%
	セグメント損益	12	1.1%	△0	△0.0%	△12	-
完成品事業	売上	415	100%	491	100%	76	18.2%
	セグメント損益	△13	△3.2%	△19	△3.9%	△6	-

アルミニウム事業: 受注量が前年同期比で3.8%減少したものの、販売単価がアップしたことにより、売上高は1.8%増。セグメント損益は、原材料の高騰等の影響により0百万円の損失となった。

完成品事業: 主要販売先である半導体関連企業や通信会社のデータセンター向け物件等の受注増により売上高は18.2%増加したものの、セグメント損益は価格競争の影響により19百万円の損失となった。

貸借対照表

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期 第1四半期	増減
流動資産	48,920	45,885	△3,035
現預金	8,791	6,113	△2,678
売上債権	25,924	24,251	△1,673
棚卸資産	10,536	11,458	922
固定資産	88,313	87,777	△536
有形固定資産	78,208	77,624	△584
資産合計	137,233	133,663	△3,570
負債合計	82,641	80,096	△2,545
買入債務	19,714	19,184	△530
長短借入金	43,014	40,458	△2,556
純資産合計	54,592	53,566	△1,026

- ◆ 資産合計の増減のうち7割程度が為替影響による
- ◆ 増資により現預金が一時的に増加した現預金が減少
- ◆ 中国広州の売上減少及び為替影響により売掛債権が減少
- ◆ 為替影響により有形固定資産が減少
- ◆ 為替影響と返済により借入金が増加
- ◆ 株主資本は増加するも、為替換算調整勘定の減少により純資産が減少

【参考 2014年5月29日説明資料】
今期の見通し



2015年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2014年3月期		2015年3月期 計画		増減	
売上高	126,783	100%	135,300	100%	8,517	6.7%
営業利益	4,449	3.5%	4,800	3.5%	351	7.9%
経常利益	4,012	3.2%	4,000	3.0%	△12	△0.3%
当期純利益	6,272	4.9%	2,500	1.8%	△3,772	△60.1%
EPS	287.10		96.81		△190.29	

- ◆ 売上高: 国内は前期の消費増税前の駆け込み需要増の反動減が懸念されるものの通期では増加すると見込まれ、海外はアジア・北米ともに増加の見込みであることから、連結売上高は前期比85億円の増加を予想。
- ◆ 営業利益: 国内は増収による効果が期待できるものの減価償却費の増加等の影響により減益を予想するも、アジア・北米での収益改善により、連結では前期比3.5億円増を予想。
- ◆ 経常利益: 為替差益(前期は4.7億円)を見込んでいないことから前期並みを予想。
- ◆ 当期純利益: 特別損益は見込まず、税前利益に実効税率を加味して予想。
前提為替レート(通期平均): 100円/米ドル、16.5円/人民元、1.65円/インドルピー

2015年3月期業績予想

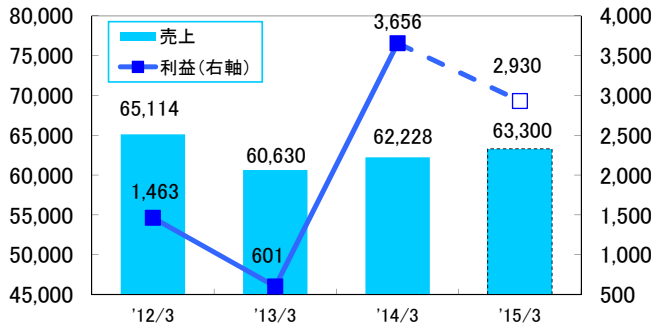
(単位:百万円)

	2014年3月期	2015年3月期 計画	増減	増減率
売上高	126,783	135,300	8,517	6.7%
ダイカスト日本	62,228	63,300	1,072	1.7%
ダイカスト北米	33,906	36,400	2,494	7.4%
ダイカストアジア	24,143	29,300	5,157	21.4%
アルミニウム	4,657	4,700	43	0.9%
完成品	1,848	1,600	△248	△13.4%
営業利益	4,449	4,800	351	7.9%
ダイカスト日本	3,656	2,930	△726	△19.9%
ダイカスト北米	509	850	341	67.0%
ダイカストアジア	180	950	770	427.8%
アルミニウム	△6	50	56	—
完成品	66	20	△46	△69.7%
消去または全社	43	—	△43	△100.0%
経常利益	4,012	4,000	△12	△0.3%
当期純利益	6,272	2,500	△3,772	△60.1%

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2014/3月期:48.3% ⇒ 2015/3月期:50.9%

ダイカスト日本

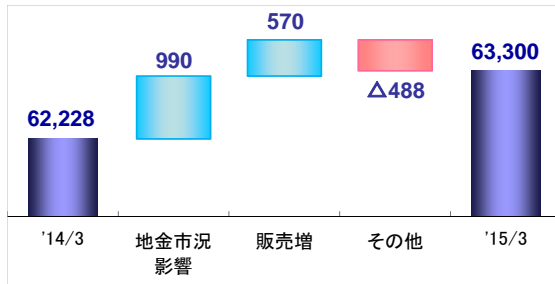
ダイカスト日本売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



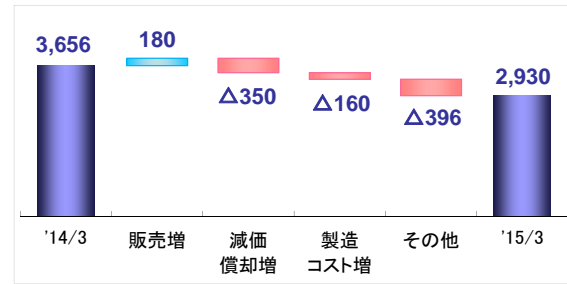
売上高: 前期の消費増税前の駆け込み需要増の反動減が懸念されるものの2Q以降回復し、地金市況の影響もあり通期では増加が見込まれる。

利益: 増収が見込まれるものの、減価償却費の増加、労務費の増加、分割回収金型の利益減少が見込まれることから減益を予想。

売上高増減予測 (百万円)

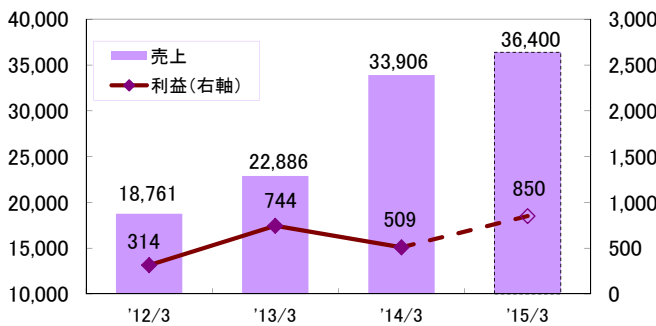


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカスト北米

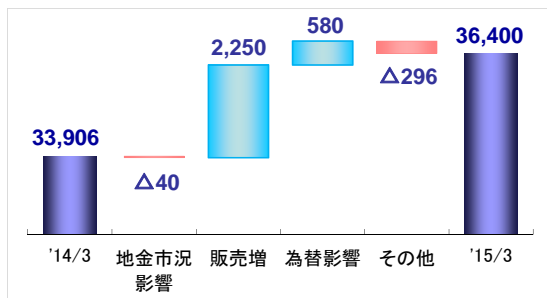
ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



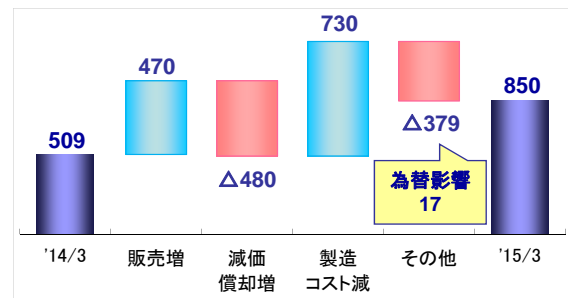
売上高: 前期の伸びよりも小さいものの売上高は増加する見込み。

利益: 減価償却費の増加があるものの増収効果、製造コスト改善により増益を見込む。

売上高増減予測 (百万円)

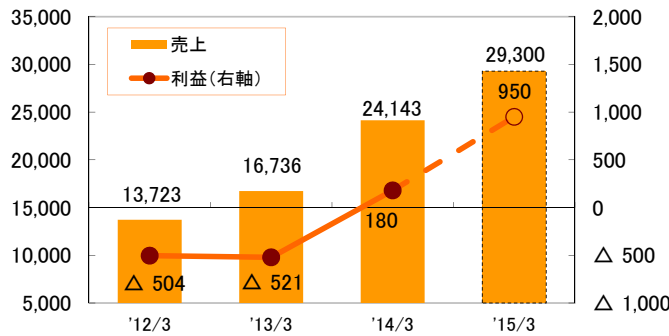


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移 (百万円)

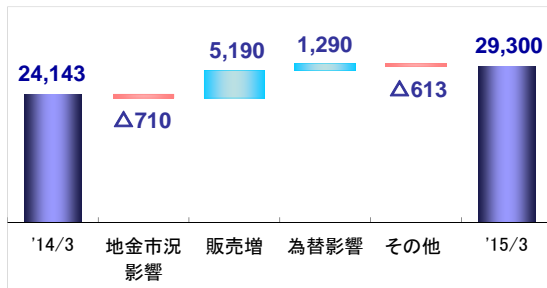


売上高: 新規品の立ち上げ、増産等により、中国、インド共に売上高は順調に増加。

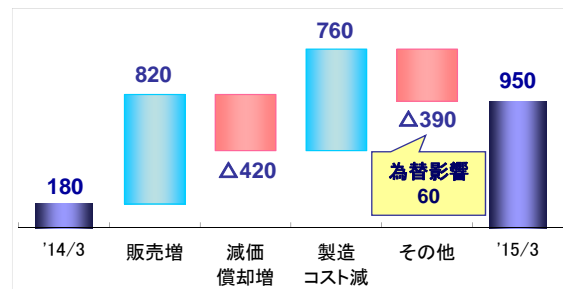
利益: 増収効果及び製造コストの削減により、中国広州の利益の増加、中国合肥も順調に売上が増加し黒字化を見込む。インドも増収効果等により改善し損失が縮小する見込み。

アジアの収益性は大幅に改善する見込み。

売上高増減予測 (百万円)



セグメント損益増減予測 (百万円)



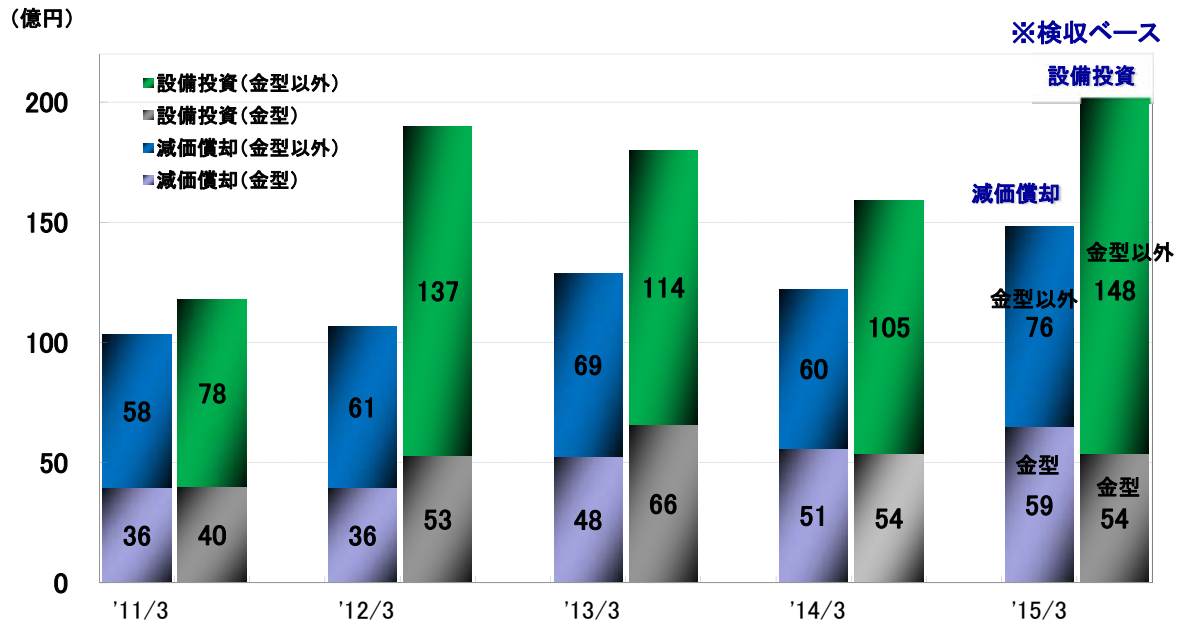
配当の状況

(単位:円)	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	12	6	3	14	12
中間配当	6	3	3	8	6
期末配当	6	3	—	6	6
一株当たり純損益(連結)	68.80	65.87	△ 7.76	287.10	96.81
配当性向(連結)	17.4%	9.1%	—	4.9%	12.4%

- ◆ 2014年3月期は、業績及び記念配を勘案して、年間14円の配当を決定
(中間配当は、創業75周年記念配当5円を含む8円を実施)
- ◆ 2015年3月期は、業績を勘案して、年間12円の配当を予想
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

◆海外ダイカスト事業の能力拡充の設備投資を計画



※海外ダイカスト拠点の能力拡充を中心に前期比40%増の設備投資を計画(金型以外)。金型投資は前期並み。

【参考 2014年5月29日説明資料】
中期目標(2017年3月期)

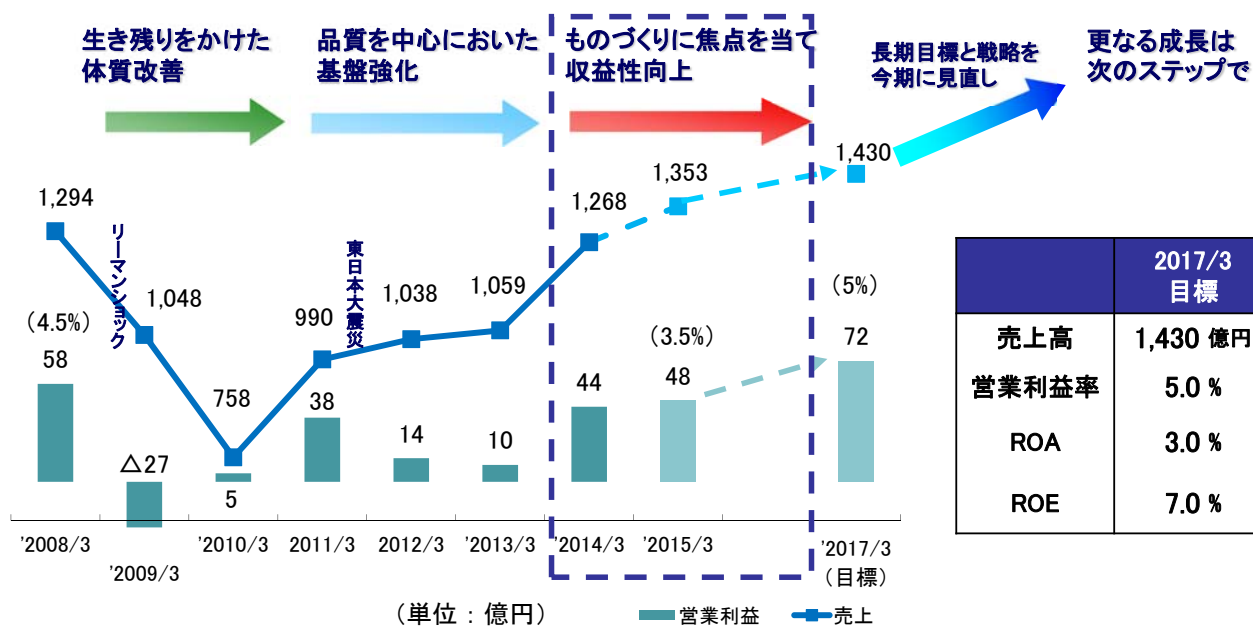


2017年3月期 目標数値

	従来目標 (2016/3期)	2014/3期 実績	評価	新たな目標 (2017/3期)
売上高	1,250 億円	1,267億円	○	1,430 億円
営業利益率	4.0 %	3.5%	△	5.0 %
ROA (総資産純利益率)	3.0 %	5.1% (2.5%)	△	3.0 %
ROE (株主資本当期純利益率)	8.0 %	13.4% (6.7%)	△	7.0 %

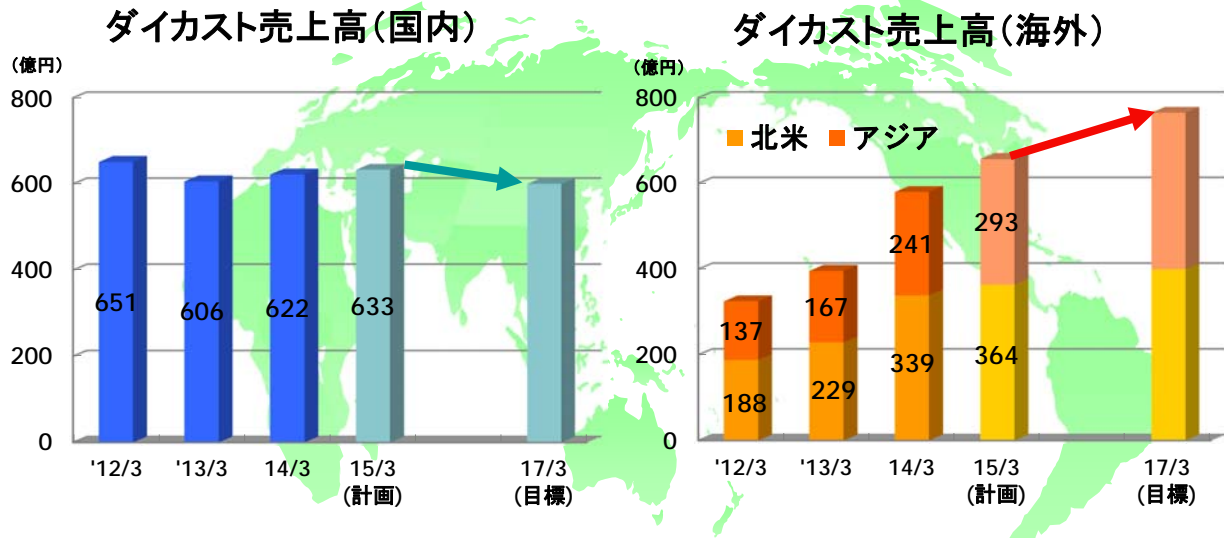
注：()内は旧浜松工場跡地の売却益及び投資有価証券の売却益の影響を除いた場合の値

2017年3月期 目標数値



- ✓ グローバル需要拡大に対応し、中国・北米を中心とした海外ダイカスト事業を拡大
- ✓ ものづくりに焦点を当てた1315中期計画の推進

ダイカスト事業売上高動向



- 日 本: 中期的には国内需要は縮小の方向であるが、積極的な営業活動により一定の売上高と収益を確保。
- 北 米: 需要拡大に対応した能力拡充投資を行いつつ、収益性を向上させていく。
- アジア: 生産性改善等によりインドの黒字化を図り、中国の需要拡大に対応しつつ収益性を向上させていく。

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。